中り川よ荒だ
青い雲
荒川中学校
教育目標
「めあてをもち　自分で考え　ねばり強くやり抜こう」
目指す学校像：「あいさつ　がまん　あとしまつ」ができる生徒
村上市立荒川中学校
令和５年度第８号
令和５年11月14日発行

「好きなこと」から元気をもらう

校長　渡辺　安治

過ごしやすい実りの秋も終わり、立冬という言葉に冬へと向かう季節を感じます。日も更に短くなりました。夕暮れ時の事故に気をつけ、感染症への十分な対策をしなければなりません。これからも栄養と睡眠、適度な運動を心掛け、日々元気に過ごしましょう。

十一月九日、延期された合唱発表会が行われました。荒川中学校の合唱は、誇るべき宝でありよき伝統です。今年から合唱の出来栄えを競うコンクールから、合唱という『誇るべき宝』を披露する発表会としました。どの学級、学年も当日の合唱を誇るべき宝として、堂々と立派に発表しました。全校合唱「虹」も大きく美しい、ハーモニーを響き渡らせてくれました。まさに合唱発表会スローガン「憧れを超える美声」でした。音楽の授業や昼休み、放課後の合唱練習では友情・仲間、支え合い、夢・希望など、これからも大切にしていくことを合唱に思いとして込めました。その強い思いが美しい歌声となり、鑑賞する人々に感動を与える合唱になりました。閉会のあいさつで、合唱発表会副実行委員長が「協力することの大切さ、保護者への感謝、合唱コンクールでの取組を今後の学校生活に生かすこと」を全校生徒と誓いました。今月二日に両小学校の六年生も参加して、当校の体育館において「いじめ見逃しゼロスクール集会」が開催され、より安心して生活できる学校を目指そうと話し合いました。これからの学校生活は今までを振り返り、来年度に向けて大きな一歩を踏み出す節目の時期となります。

今月の全校朝会では、新潟市出身で三味線ソロプレイヤーの史佳（ふみよし）さんの臨場感あふれる演奏動画を視聴しました。史佳さんは先日、県立荒川高等学校創立四十周年記念式典で講演された方です。国内外で他のジャンルの方々とも共演しています。世界的に活躍されている史佳さんですが、現在に至るまでに大きな転換期があったことを明かしました。それは『挫折』だったそうです。大学卒業後、一流と言われる企業に勤めましたが、上手くいかず悩み、仕事を辞めました。失意から救ってくれたのが、小さい頃から慣れ親しんだ三味線でした。三味線奏者だった母から教えてもらった好きな三味線は、しばらく弾いていなくても自然と音色を奏でることができたというのです。また、三味線を通じて出会った人たちにも助けてもらったそうです。「逆境のときこそ自分の好きなこと、楽しいことを継続する。出会った人の力も借りて、自分を取り戻し、高めてほしい。」と若い人たちへ温かいメッセージ、力強いエールを送ってくれました。私も史佳さんから学び、励ましてもらった気がしました。

荒川商工産業祭や荒川地区文化祭などでは、生徒が出演させていただいたり、地域の皆様と一緒に活動させていただいたり、大変お世話になりました。催し物で素敵な作品を鑑賞すること、おいしいお菓子をいただくことは、私たちの心と体を元気にしてくれます。生徒たちは地域の皆様から、たくさんのエネルギーをいただいています。これからもよろしくお願いします。